



©Yuki Asada

互いに手を取り、立ち上がろう

世界最高峰エベレストに象徴される山岳の国ネパール。21世紀に入って王制が廃止され、新たな憲法の制定など大きな過渡期を迎えるこの国では、山地でほぼそと農業を営む村も少なくない。

ネパリ・バザーロは24年にわたり、小さな村の農業や、女性の手工業による自立を支援してきた。「今、有機認証コーヒーやスパイスの栽培支援をしているシリングゲ村は、2年前に新しい道路が開通するまでは直近の道路から徒歩で片道8時間かかり、貧しさのせいで周辺住民にも差別されていました。今では私たちの奨学金で農業を学んだ若い世代が立ち上がり、変わろうとしています」とネパリ・バザーロ取締役の高橋百合香さんは言う。

シリングゲ村のあるトラドゥルン地区で

は、4月の大地震で336軒中326軒の家が崩壊した。今は仮の小屋を作るなどして雨風をしのぎ、村の復興を目指している。

「とはいえ、彼らは農業で収入を得ることができます。村を捨てて避難キャンプに逃げてきている人たちは、生計を立て直すこともままならない状況です」と、現地^{うしくほかん}に直接、支援を届けている丑久保完二副代表は言う。「24年間の交流が育んだネットワークを生かして、草の根から復興に協力したいと思います」。

東日本大震災の支援にも取り組んでいるネパリ・バザーロ。東北の被災地からも、ネパールには多くの支援が寄せられているという。二つの被災地が手を取り合えば、より良い復興を目指せるに違いない。



大地震からの復興を目指すシリングゲ村のコーヒー生産者たち

★ネパールのコーヒーとスパイスをそれぞれ5人にプレゼント! →詳細は38ページへ

★商品は「ネパリ・バザーロ」オンラインショップ(<http://verda.bz>)でも購入可能。同ショップではネパール大地震の支援募金も受け付けている。

